

ボーリング柱状図

調査名 市民ゴルフ場（仮称）クラブハウス地質調査業務委託

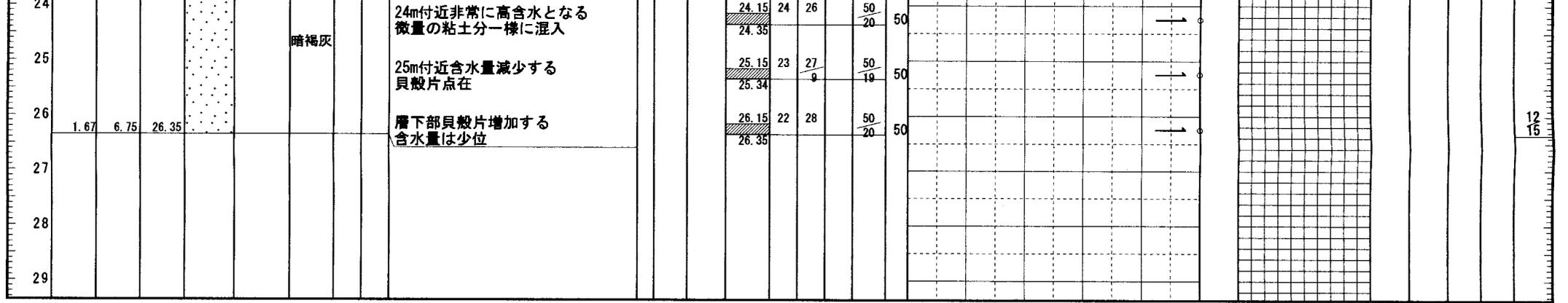
ボーリングNo. 53403167000

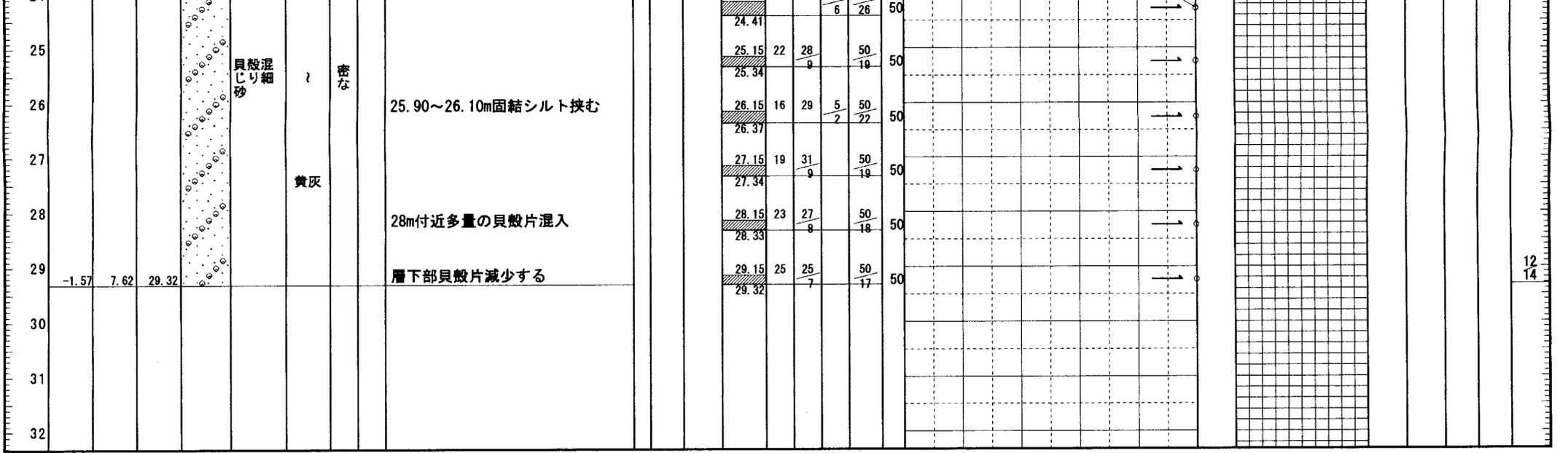
事業・工事名

シートNo.

ボーリング名	No.B-1(排水管)		調査位置	千葉市若葉区下田町1005番地他		北緯	35° 38' 21.6770"		
発注機関	千葉市都市局建築部営繕課			調査期間	平成17年12月 6日～平成17年12月 8日		東経	140° 13' 15.7830"	
調査業者名				主任技師	現代理人	コア鑑定者	ボーリング責任者		
孔口標高	H	18.20m	角	180° 上 0° 下 90°		方	北 0° 270° 西 90° 東 180° 南		
総掘進長	15.40m		地盤勾配	鉛直 90° 水平 0°		使用機種	試錐機 カナ-KR-100		
						エンジン	NS-75		
						ハンマー落下用具	ポンプ ユンパーリー		
						ポンプ	V-6		

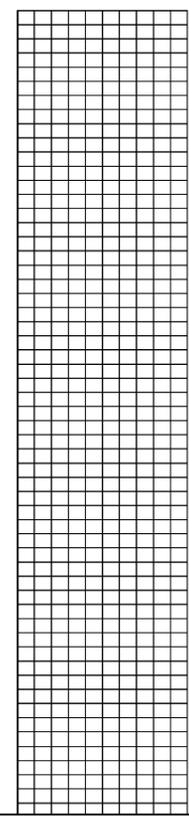
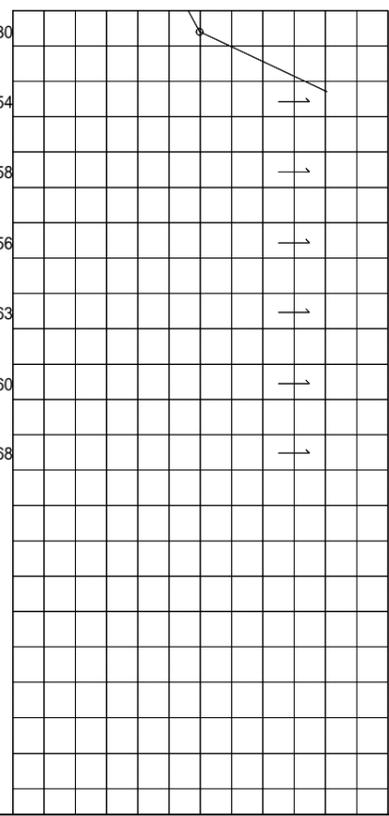
標尺	層厚	深度	柱状図	土質区分	色調	相対密度	相対稠度	記事	粒度試験による土質区分	標準貫入試験				N値	原位置試験		試料採取		掘進月日
										深	10cm毎の打撃回数	打撃回数/貫入量	貫入量		深	試験名及び結果	深	試料採取方法	
17.40	0.80	0.80		盛土(ローム)	茶褐			均質である 草根混入		1.15	1	1	2						
16.60	0.80	1.60		盛土(細砂)	暗黄褐	非常に緩い		砂粒子不均一 粘土片礫状に混入 浮石、草根混入		1.48	1	1	33						
15.25	1.35	2.95		盛土(ローム)	暗茶褐	中位		不均質である 粘土片礫状に混入 草根混入		2.15	1	2	5						
14.60	0.65	3.60		盛土(コンクリート)				擁壁基礎		2.45	1	2	30						
13.00	1.60	5.20		盛土(ローム)	茶褐	非常に軟らかい		不均質である 色調濃淡あり 凝灰質粘土礫状に混入 含水量は大位		3.00	貫入不能	50	0						
12.60	0.40	5.60		砂混じりシルト	暗黄灰	非常に軟らかい		5m以深粘土化している 少量の砂分不規則に混入 腐植土薄く挟む		4.15	1	1	2						
11.90	0.70	6.30		シルト	暗黄灰	非常に軟らかい		やや不均質である 細砂一様に混入		4.47	1	1	32						
10.40	1.50	7.80		砂混じりシルト	暗黄灰	軟らかい		多量の雲母片混入 含水量は大位 均質であり微量の細粒砂一様に混入		5.15	1	1	1						
8.30	2.10	9.90		シルト質細砂	暗黄褐	緩い		雲母片混入 粘性強く含水量は大位 均質であり細砂一様に混入		5.47	1	1	32						
5.50	2.80	12.70		シルト混じり細砂	暗褐灰	緩い		所々黒色部分斑点状に混入 粘性強く含水量は大位 7m付近所々浮石混入		6.15	1	1	3						
4.20	1.30	14.00		細砂	暗褐灰	中ぐらい		粒子均一な細粒砂主体 シルト分一様に混入 非常に高含水である		6.45	1	1	30						
2.80	1.40	15.40		貝殻混じり細砂	暗緑灰	非常に密な		所々酸化部分ブロック状に混入 9m以深含水量は少位 粒子均一な細粒砂主体		7.15	1	1	3						
								シルト分一様に混入 雲母片、浮石混入 11m付近シルト分礫状及びシーム状に混入		7.45	1	1	30						
								所々黒色部分不規則に混入 含水量は大位		8.15	1	1	3						
								砂粒子均一		8.46	1	1	31						
								雲母片、スコリア混入 含水量は大位		9.15	2	2	7						
								砂粒子不均一		9.45	2	2	30						
								貝殻片(10mm以下)多量混入 雲母片混入		10.15	2	3	9						
								15m以深貝殻片減少 含水量は大位		10.45	2	3	30						
										11.15	2	2	9						
										11.45	2	2	30						
										12.15	3	3	13						
										12.45	3	3	30						
										13.15	7	8	23						
										13.45	7	8	30						
										14.15	14	17	50						
										14.43	14	17	28						
										15.15	15	18	50						
										15.40	15	18	25						





24	4.30	2.10	23.70	シルト混り細砂	褐灰	中位	
25				細砂	褐灰	極密	砂粒子均一な微細砂で一定している。調査地の工学的な基盤層である。(耐震基盤+支持層)部分的にシルトをシーム状に挟在しており、層理が明瞭。地下水が賦存し飽和状態である。
28	0.40	3.90	27.60	細砂	褐灰	極密	シルト分はほとんど含まず、砂粒子均一なファインな細砂からなる。28m付近は貝殻片が認められる。非常に良く締まっており、安定した地層である。含水は高位。
29	-1.37	1.77	29.37				
30							
31							
32							
33							
34							

23.15	8	10	12	30
23.45				30
24.15	15	18	17	50
24.43			8	28
25.15	16	20	14	50
25.41			6	26
26.15	15	17	18	50
26.42			7	27
27.15	17	20	13	50
27.39			4	24
28.15	16	20	14	50
28.40			5	25
29.15	18	24	8	50
29.37			2	22



ボーリング柱状図

調査名 下田最終処分場跡地整備事業地質調査業務委託

ボーリング 5 3 4 0 3 1 6 6 0 0 0
シート

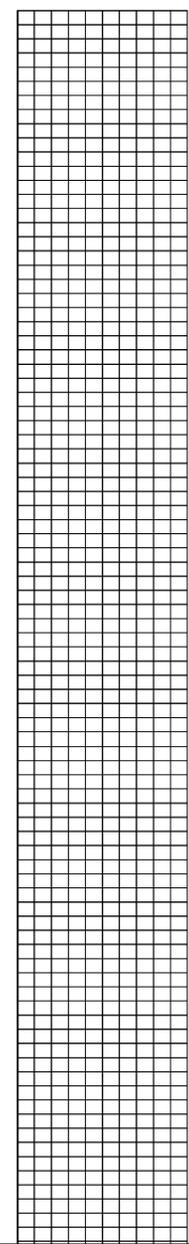
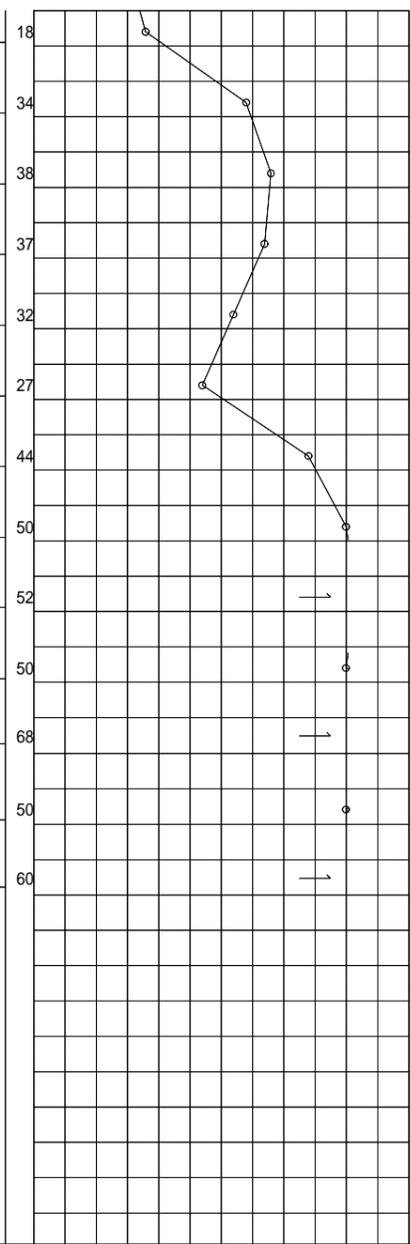
事業・工事名

ボーリング名	No.B-3	調査位置	千葉市若葉区下田町971番地	北緯	35° 38' 19.0000"
発注機関	千葉市都市局建築部営繕課	調査期間	平成18年11月26日～平成18年11月27日	東経	140° 12' 23.5000"
調査業者名		主任技師		現場代理人	
孔口標高	TP 28.29m	角	180° 上 下 0°	方	0°北 0° 270°西 90°東 180°南
総掘進長	35.40m	度	0°	地盤勾配	0°水平 0°鉛直 90°
		使用機種	試錐機 KANO KR-100 エンジン NFD10	コア鑑定者	ボーリング責任者
				ハンマー落下用具	ポンプ KANO V6

標尺	層厚	深度	柱状図	土質区分	色調	相対密度	相対稠度	記号	孔内水位/測定月日	標準貫入試験				N値	原位置試験	試料採取		室内掘進
										深	10cm毎の打撃回数	打撃回数/貫入量	貫入量			深	試験名及び結果	
m	m	m	m						m	m	0 10 20 30 40 50 60	m	m	m	号	法	日	
1				盛土(ローム)	褐			1m部分的に黒ぼくブロック状に混入	11/26 8.50	1.15	1	1	3					
2	25.89	2.40	2.40							1.50								
3				盛土(砂質粘土)	暗灰			3m砂ブロック状に混入		2.15	1	1	3					
4	24.49	1.40	3.80					4m部分的に砂少量混入 ガラス片混入		2.45	4	4	13					
5				盛土(粘土)	暗褐			5m斑点状に黒灰色帯びる 4~5m色調の変化著しい		3.15	4	4	13					
6								6mやや均質となる		3.45								
7	20.59	3.90	7.70					8mパイプ状に腐植物介在 9m若干粘土分含有 均質 含水大		4.15	1	1	4					
8				有機質シルト	黒灰					4.45								
9	18.49	2.10	9.80					10~11m均一に若干シルト含有 10m腐植物少量点在 色調が黄褐に変化 雲母片やや多く点在 粒子不均一 含水大		5.15	1	1	3					
10				シルト混り細砂	暗青灰					5.52								
11	16.59	1.90	11.70					12~14m均一にシルト分多く含有 雲母片多く点在 浮石少量点在 14m部分的に酸化物混入 均質 含水大		6.15	1	2	4					
12				シルト質細砂	黄褐					6.45								
13								15~16m若干シルト分含有 雲母片多く点在		7.15	1	1	3					
14	13.69	2.90	14.60					17~19m均一にシルトやや多く含有 雲母片非常に多く混入 均質 含水中		7.45								
15				シルト混り細砂	黄褐					8.15	1	1	2					
16								20m均一にシルト多く含有する微細砂、雲母片多く点在 均質 含水中		8.45								
17	8.69	5.00	19.60							9.15								
18				シルト質細砂	黄褐					9.60	1	2	5					
19								21m均一にシルト分含有 21~23m雲母片多く点在 一様に微細砂混じる		10.15	1	2	5					
20	7.59	1.10	20.70							10.45								
21				シルト質細砂	黄褐					11.15	2	3	8					
22								22~23m均一にシルト多く含有		11.45								
23										11.70								

24				シルト質細砂	黄褐	22mより色調が黄褐に変化 不均一 含水中 23.60~23.90付近粘性土挟む 24~26m均一にシルト分含有 雲母片少量点在 細粒で均一 含水中
25	1.59	6.00	26.70			
26						
27				シルト混り細砂	暗黄褐	27mはんでん状にシルト介在 27~29m均一に若干シルト分含有 赤灰のシルトシーム状に混入 均質 含水中
28						
29	-1.51	3.10	29.80			
30				細砂	暗黄褐	30~32m若干シルト含有する 浮石少量点在 粒子不均一 含水中
31						
32	-4.41	2.90	32.70			
33				シルト質細砂	暗黄褐	33m不規則にシルト挟む
34	-5.51	1.10	33.80	中砂	暗灰	浮石シーム状にやや多く介在 酸化物混入 粒子不均一 含水大 34~35m部分的にシルト薄層状に 混入 浮石少量点在 不均質 含水中
35	-6.01	0.50	34.30	シルト質細砂	暗黄褐	
36	-7.11	1.10	35.40	シルト質細砂		
37	-7.16	0.05	35.45			
38						
39						
40						

23.15	3	6	9	18
23.45				30
24.15	7	12	15	34
24.45				30
25.15	10	13	15	38
25.45				30
26.15	9	13	15	37
26.45				30
27.15	8	12	12	32
27.45				30
28.15	7	9	11	27
28.45				30
29.15	10	15	19	44
29.45				30
30.15	14	17	19	50
30.45				30
31.15	13	18	19	50
31.44			9	29
32.15	11	19	20	50
32.45				30
33.15	20	25	5	50
33.37			2	22
34.15	10	18	22	50
34.45				30
35.15	19	20	11	50
35.40			5	25



ボーリング柱状図

調査名 下田最終処分場跡地整備事業地質調査業務委託

ボーリングNo. N o - B - 2

事業・工事名

シートNo.

ボーリング名	N o B - 2		調査位置	千葉市若葉区下田町971番地		北緯	
発注機関	千葉市都市局建築部営繕課			調査期間	平成18年11月16日～18年11月17日		東経
調査業者名	主任技師			現場代理人	コア鑑定者	ボーリング責任者	
孔口標高	28.00m	角	180°上 90° 0°下	方	北0° 270°西 90°東 180°南	地盤勾配	鉛直90° 水平0°
総掘進長	29.37m	使用機種	試錐機		KANO KR-100	ハンマー落下用具	コーンブーリー
		エンジン			NFD-10	ポンプ	KANO V-6

標尺 (m)	層厚 (m)	深度 (m)	柱状図	土質区分	色調	相対密度	相対稠度	記号	標準貫入試験				原位置試験	試験名および結果	試料採取	室内試験	掘進
									深 (m)	10cmごとの打撃回数	打撃回数/貫入量 (cm)	N 値					
1				盛土	茶褐				1	1	1	1					
2								表層最上部より2.50m付近まではローム土主体。所々に小礫点存在する。以深は粘土質シルトをシーム状に含み不均質である。木片や腐植物点存在する。盛土層最下部は粘土とロームの混合土。層全体に粘性土系である。	1	1	1	1					
3									1	1	1	1					
4									1	1	1	1					
5									1	1	1	1					
6	21.50	6.50	6.50						1	1	2	3	5.00	孔内水平載荷試験			
7				粘土混じり砂	黄褐		緩い	粒子均一な細砂。層全体に粘土分を含む。色調一定せず不統一。含水状態は中位～高位で飽和している。ややルーズな相対密度状態にある。	1	2	2	2	6.00				
8	19.50	2.00	8.50						2	2	3	3					
9									6	6	7	7					
10				細砂	茶褐		中位	砂粒子はやや不均一。粘土分の混入は少なくファインである。含水状態は高位であり、地下水が賦存する。砂の締め具合は、緩い～中位。	4	5	7	7	10.00	孔内水平載荷試験			
11									4	5	5	5	11.00				
12	15.30	4.20	12.70						4	5	6	6					
13									3	4	4	4					
14									3	3	4	4					
15				微細砂	褐灰		中位	粒子均一な細砂であるが、砂粒子が細かく微細砂（細砂とシルトの中間）に相当する。色調は酸化のため一定しない。含水状態は中位～高位で飽和している。地層の締め具合は概ね中位であるが、19m以深からは比較的密になってくる。	2	2	2	2					
16									4	5	6	6					
17									6	7	9	9					
18									8	10	10	10					
19									9	11	12	12					
20									9	9	10	10					
21	6.40	8.90	21.60						7	8	9	9					
22				シルト混じり細砂	褐灰		中位	薄層状（シーム）にシルト層を挟在する。層理構造が顕著。色調やや変化し、一定しない。含水状態は中位～高位。	8	10	12	12					
23	4.30	2.10	23.70						15	18	17	17					
24									16	20	14	14					
25				微細砂	褐灰		極密	砂粒子均一な微細砂で一定している。調査地の工学的な基盤層である。（耐震基盤+支持層）部分的にシルトをシーム状に挟在しており、層理が明瞭。地下水が賦存し飽和状態である。	15	17	18	18					
26									17	20	13	13					
27	0.40	3.90	27.60						16	20	14	14					
28				細砂	褐灰		極密	シルト分はほとんど含まず、砂粒子均一なファインな細砂からなる。28m付近は貝殻片が認められる。非常に良く締まっており、安定した地層である。含水は高位。	18	24	8	8					
29	-1.37	1.77	29.37														

11/16

11/17

ボーリング柱状図

調査名 下田最終処分場跡地整備事業地質調査業務委託

ボーリングNo. N o - B - 3

事業・工事名

シートNo.

ボーリング名	N o B - 3	調査位置	千葉市若葉区下田町971番地	北緯
発注機関	千葉市都市局建築部営繕課	調査期間	平成18年11月26日～18年11月27日	東経
調査業者名	主任技師	現場代理人	コア鑑定者	ボーリング責任者
孔口標高	28.00m	角	180°上 90° 0°下	方
総掘進長	35.45m	度	北0° 270°西 90°東 180°南	地盤勾配
		使用機種	試験機 KANO KR-100	ハンマー落下用具
		エンジン	NFD-9	ポンプ
				コーンプーリー
				KANO V-6

標尺 (m)	層高 (m)	層厚 (m)	柱状図	土質区分	色調	相対密度	相対稠度	記号	孔内水位 (m) / 測定月日	標準貫入試験				原位置試験	試験名および結果	試料採取番号	採取方法	室内試験 (掘進月日)
										深 (m)	10cmごとの打撃回数	打撃回数 / 貫入量 (cm)	N 値					
1				盛土	茶褐	軟らかい		ローム土主体の盛土層。所々にブロック状のクロボクが混入し不均質。2m付近は砂分多く混入する。含水は高位である。		1	1	1	3					
2	25.60	2.40	2.40	盛土	暗灰	硬い		粘性土系盛土層であるが層全体に砂分を多く含む。含水状態は中位～高位。		1	1	1	3					
3	24.20	1.40	3.80	盛土	暗褐	軟らかい		粘性土系盛土層である。黒色のクロボクを含むため色調一定しない。4m付近にガラス片混入。砂分は部分的に多く混入している。含水状態は中位。		1	1	1	3					
4				有機質シルト	黒灰	極軟		有機質土からなる湿地性の堆積物であり、旧表土に相当する。未分解の腐植物やパイプ状の植物残滓みられるが、概ね均質な層相を呈する。含水状態は高位であり、地下水によって飽和している。N値が低く、軟弱土層と判定。薄層状にシルト層を挟在する。層理構造が顕著。色調やや暗灰～褐灰に変化し、一定しない。含水は高位で飽和状態。	11/26 8.50	1	1	1	0					
5				シルト混じり細砂	褐灰	緩い		シルトをシーム状に多く含んでおり、やや不均質。層理は明瞭である。僅かに軽石粒を含む。地下水が賦存し飽和状態である。		1	1	1	0					
6				シルト質細砂	褐灰	緩い		層上部は僅かにシルト分を含むが、概ね粒子均一な褐灰色細砂からなる。深度方向にシルト分の混入が漸増する。含水は中位。		1	1	1	0					
7	20.30	3.90	7.70	シルト質微細砂	褐灰	中位		砂粒子、更に細くなる。シルト分は層全体に含まれている。含水は中位。		1	1	1	0					
8	18.20	2.10	9.80	シルト質細砂	暗黄褐	中位～密		シルト分の混入が増加し、砂泥混合土状態に近い。22m～23m付近はシルト分多く互層状を呈し層理明瞭。23.60～23.90、シルト挟在層。砂粒子は不均一、色調も一定しない。24m以深は粒子均一。含水は概ね中位である。		1	1	1	0					
9				シルト混じり細砂	暗黄褐	密		細かなブロック状にシルト塊を含む。28m以深は層状のシルト互層 (層理構造) シルト分の混入は全般に少なく概ね均質である。含水中位。		1	1	1	0					
10	16.30	1.90	11.70	細砂	暗黄褐	極密		僅かにシルトと軽石粒を含むが粒子均一な均質細砂である。非常に良く締まった状態にあり調査地の工学的な基盤層を構成している。含水状態は低位～中位。		1	1	1	0					
11	13.40	2.90	14.60	シルト質細砂	暗黄褐	極密		不規則にシルト薄層を挟在しており、成田砂層特有の層理構造が顕著である。33.80～34.30m間は砂粒子が中砂に変化する。軽石粒を点状に含む層状に含み砂粒子は不均一である。安定した基盤層と評価。		1	1	1	0					
12				シルト質細砂	暗黄褐	極密				1	1	1	0					
13				シルト質細砂	暗黄褐	極密				1	1	1	0					
14	8.40	5.00	19.60	シルト質細砂	暗黄褐	極密				1	1	1	0					
15	7.30	1.10	20.70	シルト質細砂	暗黄褐	極密				1	1	1	0					
16				シルト質細砂	暗黄褐	極密				1	1	1	0					
17				シルト質細砂	暗黄褐	極密				1	1	1	0					
18				シルト質細砂	暗黄褐	極密				1	1	1	0					
19				シルト質細砂	暗黄褐	極密				1	1	1	0					
20				シルト質細砂	暗黄褐	極密				1	1	1	0					
21				シルト質細砂	暗黄褐	極密				1	1	1	0					
22				シルト質細砂	暗黄褐	極密				1	1	1	0					
23				シルト質細砂	暗黄褐	極密				1	1	1	0					
24				シルト質細砂	暗黄褐	極密				1	1	1	0					
25				シルト質細砂	暗黄褐	極密				1	1	1	0					
26				シルト質細砂	暗黄褐	極密				1	1	1	0					
27				シルト質細砂	暗黄褐	極密				1	1	1	0					
28				シルト質細砂	暗黄褐	極密				1	1	1	0					
29				シルト質細砂	暗黄褐	極密				1	1	1	0					
30				シルト質細砂	暗黄褐	極密				1	1	1	0					
31				シルト質細砂	暗黄褐	極密				1	1	1	0					
32				シルト質細砂	暗黄褐	極密				1	1	1	0					
33				シルト質細砂	暗黄褐	極密				1	1	1	0					
34				シルト質細砂	暗黄褐	極密				1	1	1	0					
35				シルト質細砂	暗黄褐	極密				1	1	1	0					